

## 令和 4(2022)年度 卒業時アンケート及び在学生アンケート集計結果の総括

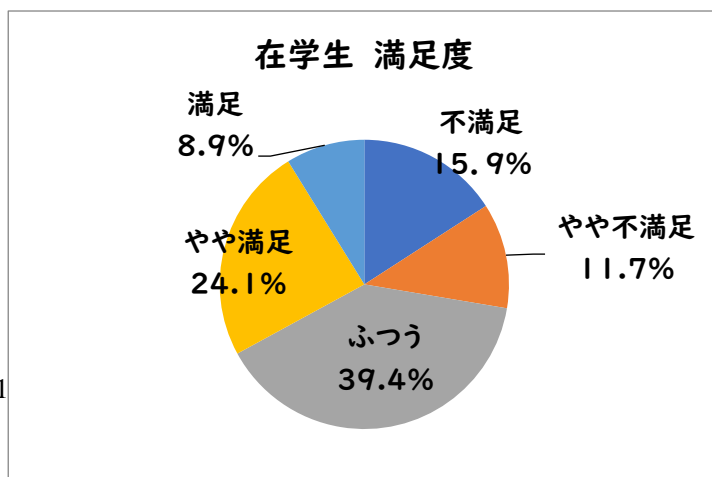
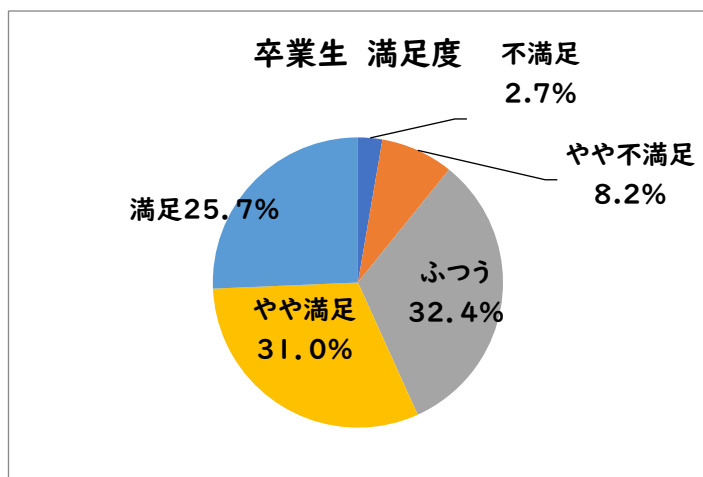
令和 5(2023)1月 対面マークシートにて実施	実施対象者数	回答者数	回答率
卒業時アンケート	93	* 78~92	* 83.9%~98.9%
在学生アンケート	204	* 191~204	* 93.6%~100.0%

### 【総評】

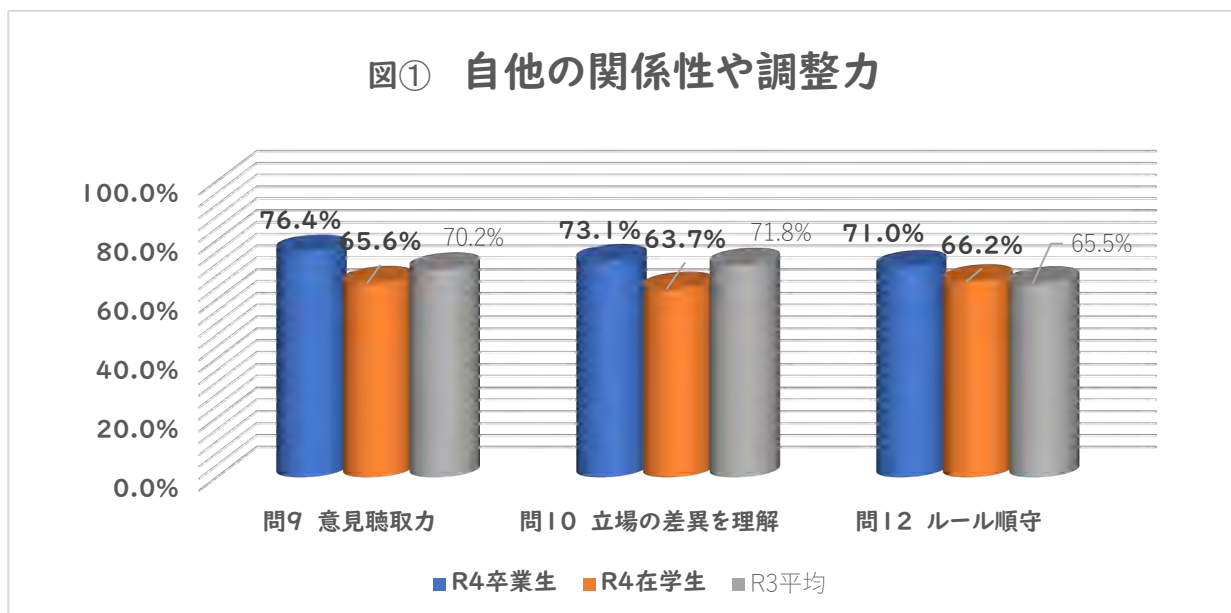
令和 4(2022)年度卒業時アンケート及び在学生アンケートは、昨年度の総括で指摘があった「回答率の下落防止のため実施方法等を再検討すべき」との意見を受け、マークシートを利用した対面での配布・回収で実施した。昨年度は、卒業生アンケート 102 名中 65 名回答（回答率 63.7%）、在学生アンケート 321 名中 126 名回答（回答率 39.3%）であったが、今回の卒業生アンケートの回収率は、卒業時アンケートで 83.9%（昨年度 63.7%、+20.2%）、在学生アンケートでは 93.6%（昨年度 39.3%、+54.3%）と大幅な上昇をみている。しかし、マークシートの塗り残しや空欄といった選択記入の不完全さから算出できなかった項目も一定数あり、回収率を上げつつ精度の高いアンケートとするため課題を残す結果となった。また Active Academy を用いた令和元（2019）年度から令和 3（2021）年度までの集計とは異なるため、過年度のアンケート結果と相関性を持たせる作業が必要であったことも、集計側の問題として今後考慮すべき点である。総括すればマークシートを用い、昨年度の課題であった回収率の上昇は達成されたものの、一定数の「算入不能項目」と「過年度との連動性」において、今後改善策が必要である。

以下は、各事項の具体的な事項である。なお前年度と集計方法が異なるため、各項目の比較に関しては今年度卒業生・在学生の傾向を示すに留め、参考として〔 〕内に前年度からの増減を附している。

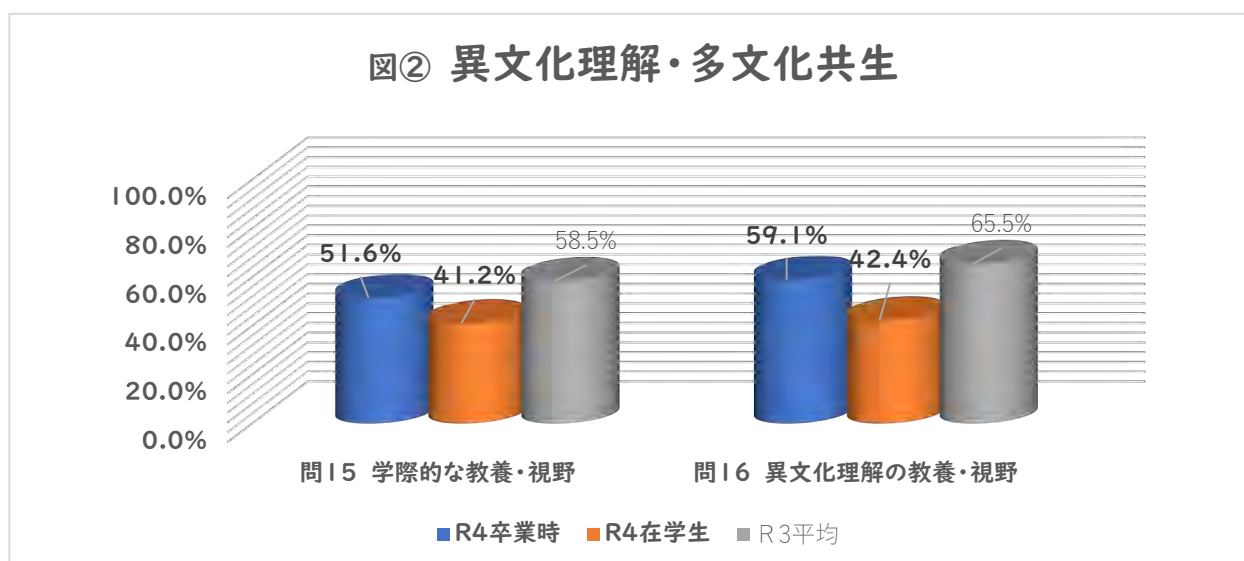
- (1) 1 款の「卒業するにあたり、どの程度満足しているか」については、左図が卒業時アンケート、右図が在学生アンケートの結果である。卒業時アンケートでは、集計中 46%の学生が「満足」「やや満足」と回答し、回収率上昇にもかかわらず満足度において、昨年度の 40%より 6 ポイント上昇傾向にある。「ふつう」と回答した 32.4%を肯定的に捉えるならば約 80%の学生が一定の評価をしていると考えられる。在学生アンケートの結果では、33%の学生が「満足」「やや満足」と回答し、昨年度の 22.2%より 7.8 ポイント上昇している。半面「やや不満」「不満」が 27.6%（昨年度 33.3%）と、満足度に比して不満足の高割合が多い。しかし昨年度の「不満」「やや不満」の比率 33.3%に比べ、否定的評価が 5.7 ポイント減少しており改善傾向にある。



(2) 2款1項「社会人としての基礎的な能力」において、「そう思う」「ややそう思う」の割合を整理すると、問9「相手の意見を丁寧に聴く力（卒76.4% [+1pt]・在65.6% [+0.6pt]）」、問10「意見の違いや立場の違いを理解する力（卒73.1% [-5.4pt]・在63.7% [-1.4pt]）」、問12「社会のルールや人との約束を守る力（卒71.0% [-1.3pt]・在66.2% [+7.5pt]）」の各項目が高い割合を示しており、社会の一員として自他の関係性の認識や調整力に肯定的評価をしている学生の多い結果となった。前年度の同項目も今年度以上に高い割合を示しているものが多い。

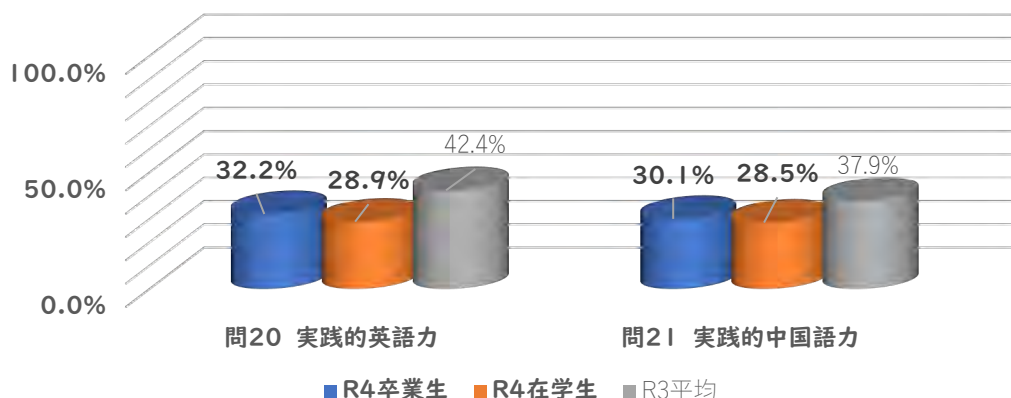


2款2項「知識・教養」において「そう思う」「ややそう思う」の割合を整理すると、問15「特定の分野に限定されない広い教養と視野（卒51.6% [-19.2pt]・在41.2% [-5.2pt]）」、問16「異文化理解と多文化共生を進めるために必要な教養と視野（卒59.1% [-22.5pt]・在42.4% [-16.3pt]）」では、異文化理解・多文化共生に必要な多角的かつ学際的な視点の涵養に関して、肯定的に評価している学生が41.2%~59.1%存在し、本学教育課程の目的を一定程度理解している結果となった。しかし、昨年度に比して16.3~22.5ポイントの減少となっている。



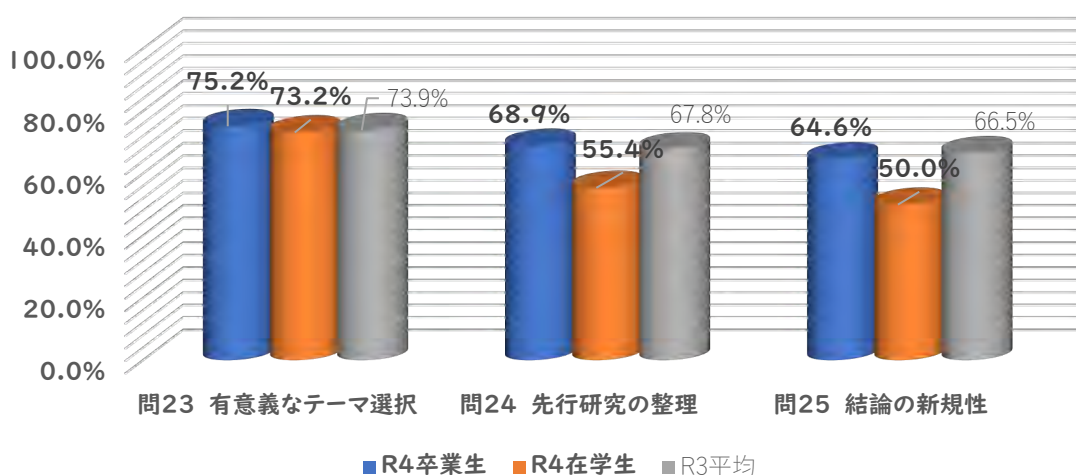
2 款 3 項「外国語運用能力」において「そう思う」「ややそう思う」の割合を整理すると、問 20「英語による実践的コミュニケーション能力（卒 32.2% [-16.9pt]・在 28.9% [-6.9pt]）」、問 21「中国語による実践的コミュニケーション能力（卒 30.1% [-3.7pt]・在 28.5% [-13.6pt]）」と、他の質問項目に比してやや自信のない回答が目立ち、前年度に比しても 3.7~16.9 ポイントの減少となっている。

図③ 英語・中国語における実践的語学能力



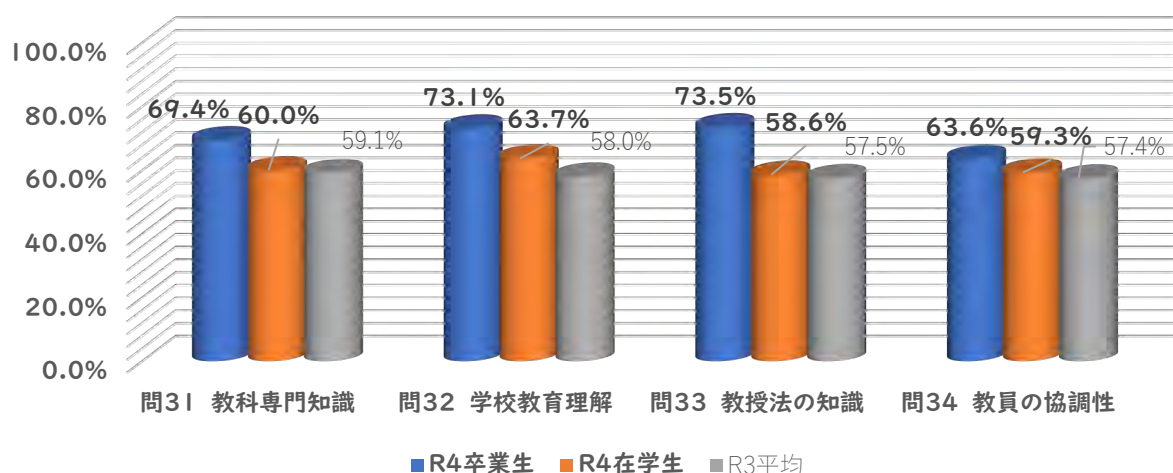
2 款 4 項「アカデミアゼミと卒業研究・卒業論文」において「そう思う」「ややそう思う」の割合を整理すると、問 23「意義あるテーマを選択することができた（卒 75.2% [-4.9pt]・在 73.2% [+5.4pt]）」、問 24「先行研究をしっかりと踏まえることができた（卒 68.9% [-12.6pt]・在 55.4% [+1.2pt]）」、問 25「独自性のある結論を示すことができた（卒 64.6% [-10.8pt]・在 50.0% [-7.6pt]）」とあり、卒業時において問 23~問 29 まで各項目とも肯定的評価が高く、在学生においては研究途上であり相対的に低くなっているものの、本学教育課程におけるアカデミアゼミへの関心の高さと有用性を示す数値となっている。同項目における前年度と比較すると、評価の増加した問 23「意義あるテーマの選択（在 73.2% [+5.4pt]）」、問 24「先行研究をしっかりと踏まえることができた（在 55.4% [+1.2pt]）」で、その他の項目は 4.9~12.6 ポイントの減少となった。

図④ アカデミアゼミ関連



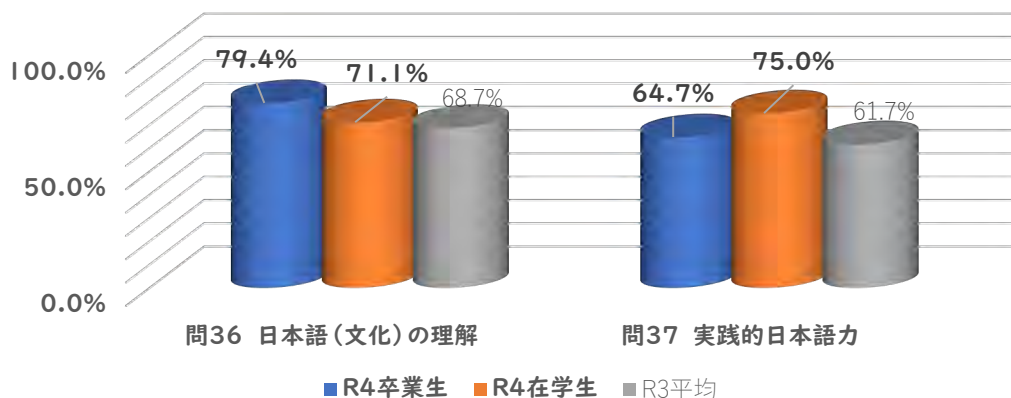
2 款 5 項「教職課程（教職課程履修者のみ）」において、「そう思う」「ややそう思う」の割合を整理すると、問 31「教科に関する必要な専門知識（卒 69.4% [同]・在 60.0% [+11.2pt]）、問 32「学校教育に対する理解（卒 57.1% [-6pt]・在 63.3% [+11pt]）、問 33「教授法に関する知識（卒 73.5% [+1.3pt]・在 58.6% [+15.8pt]）、問 34「教員としての協調性とコミュニケーション能力（卒 63.6% [+2.5pt]・在 59.3% [+5.6pt]）」とあり、各項目とも質問全体として肯定的割合が高くなっている。前年度に比しても肯定的評価の増加した項目が多く、本学教職カリキュラムに対する教職学生の好印象を示した数値ともいえる。

図⑤ 教職学生関連

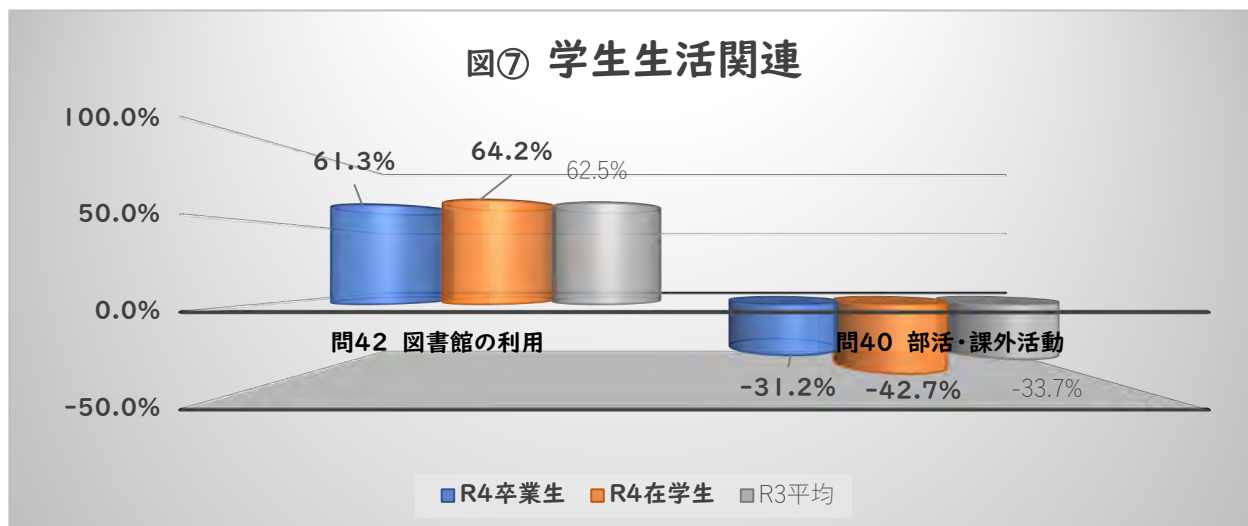


2 款 6 項「国際日本コース（留学生のみ）」において、「そう思う」「ややそう思う」の割合を整理すると、問 36「日本語・日本文化の理解を通して国際社会に貢献できる能力(卒 79.4% [+12.7pt]・在 71.1% [+0.3pt]）」、問 37「実践的な日本語運用能力（卒 64.7% [+6.2pt]・在 75.0% [+10pt]）」となり、卒業生・在学生とも高い数値を示し、前年度に比して 0.3~12.7 ポイントの増加が認められ、国際日本コースの取り組みが一定度の成果を示している数値となった。相対的に卒業生・在学生とも低評価も僅少（5%~6.7%）であり、本学在学中の能力伸長を感じているようである。

図⑥ 国際日本コース（留学生）関連



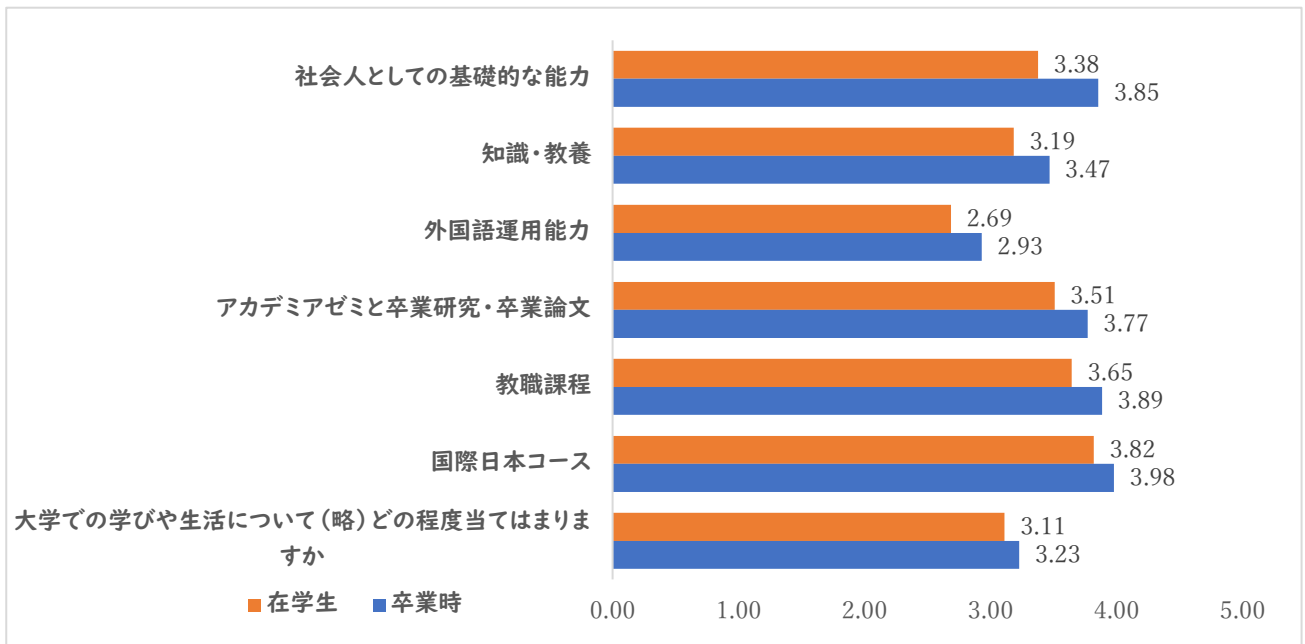
(3) 3 款「大学での学びや生活について…」にみる本学の生活面において、「そう思う」「ややそう思う」の割合を整理すると、問 39～問 50 の 12 項目の質問中、問 42「図書館は利用しやすかった (卒 61.3% [+1.3pt]・在 64.2% [-0.8pt])」が、卒業時・在学生とも最も高い数値を示している。一方で「そう思わない」「ややそう思わない」といった否定的評価が肯定的評価を上回った項目は、卒業時・在学生とも問 40「部活動など授業外の活動 (卒 31.2% [+3.5pt]・在 42.7% [+3pt])」となっている。2020 年初頭から約 3 年半に及ぶ新型コロナ感染対策で、課外活動が限定された影響を現しており、前年度に比して否定的評価が増加した結果となった。



全学生対象での回答で最も肯定的評価（「そう思う」「ややそう思う」）の高かった質問項目は、問 23「アカデミアゼミと卒業研究・卒業論文（意義のあるテーマを選択することができた）」（卒 75.2%・在 73.2%）、問 36「日本語・日本文化の理解を通して国際社会に貢献できる能力（卒 79.4%・在 71.1%）」となっており、昨年度と同様の傾向が窺える。

その他肯定評価の高い質問項目は、卒業時アンケートでは第 1 款「社会人としての基礎的能力」問 3「物事に進んで取り組む能力（卒 67.8%）」、問 6「課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力（卒 63.4%）」、問 9「相手の意見を丁寧に聴く力（卒 76.4%）」、問 10「意見の違いや立場の違いを理解する力（卒 73.1%）」、問 12「社会のルールや人との約束を守る力（卒 71.0%）」、2 款 4 項「アカデミアゼミと卒業研究・卒業論文」の問 23「意義あるテーマを選択することができた（卒 75.2%）」、問 24「先行研究をしっかりと踏まえることができた（卒 68.9%）」、問 25「独自性のある結論を示すことができた（卒 64.6%）」等があり、本学の学修面における積極性や自他の関係性認識と、自律的な調査研究面で肯定的数値が高い結果となった。

なお、款項目の質問全体では、次のグラフのような結果であった。各項目の上段が在学生の値、下段が卒業時の値である。



シート裏面「大学への意見・要望」を内容別にまとめると以下のようになった。

